

東洋医学タッチケアの可能性の検討

自閉症・情緒障害のある児童が持つ心身トラブルの
改善を目指して

保健科学部・助教

笹岡 知子

キーワード

東洋医学、タッチケア、自閉症・気分障害、児童

研究概要

特別支援学級（自閉症・情緒障害）に在籍または通級している児童数は、平成20年度時点で46,000人を超えています。

児童らは、コントロールが難しい気分の変化や問題行動に加え、食欲不振や便秘などの身体的な症状を自覚していることも多く、心身両面からのケアが必要としていますが、身体的な症状については、よほど重度で無い限り治療対象になりにくいのが現状です。

東洋医学では、心と身体の問題を1つの原因からなると考えて治療を行います。軽度の症状でも未病として捉え、治療の対象とします。加えて、タッチケアでの研究報告はまだありませんが、薬物療法に鍼灸治療を併用したり、薬物療法に反応を示さなかった症例に対して鍼灸治療を行うと、奏功を示すケースがあります。

このような特徴を持つ東洋医学をタッチケアに取り入れ、自閉症や情緒障害の児童の健康向上に応用する方法を検討しています。



応用例・用途

児童が感じている心身の問題点を解消する。

気分が安定し、家庭や学校での生活がスムーズに送れるようになる。

便秘や食欲不振など、身体的な症状が解消され、健康状態が向上する。

家族間でのコミュニケーションの機会が増える。

など。

